

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	21	実施計画番号	92
事務事業名	地域防犯活動への支援		事業開始年度
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	犯罪防止のため、防犯団体が行う防犯パトロールや啓発活動に対し支援する。		
事務事業の目的	犯罪のない明るいまちづくりを進める。		
実施状況	地域と連携して防犯活動を実施している団体に、防犯事業の委託及び補助金を交付している。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)		1,158	1,155	1,155
うち一般財源		1,158	1,155	1,155
うち国県支出金				
うち地方債				
うちその他				

【指標】

活動指標	活動指標名①		補助金額			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
			千円	159	159	159
	活動指標名②					
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
成果指標	成果指標名①		防犯街頭活動数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		回数	目標値	6	6	6
			実績値	6	6	6
			達成度(%)	100%	100%	100%
	成果指標名②		犯罪件数(前年度以下を目標とする)			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
	件	目標値	400	350		
		実績値	473	399		
		達成度(%)		100%		

十和田市事務事業評価シート

整理No	21
計画No	92

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 犯罪を抑止するには、警察行政だけでなく、地域住民が一体となって活動することが必要である。このため、地域の防犯団体等が積極的に活動する必要がある。また、協働によるまちづくりの観点から市の支援は妥当性がある。 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	犯罪を抑止するには、警察行政だけでなく、地域住民が一体となって活動することが必要である。このため、地域の防犯団体等が積極的に活動する必要がある。また、協働によるまちづくりの観点から市の支援は妥当性がある。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
犯罪を抑止するには、警察行政だけでなく、地域住民が一体となって活動することが必要である。このため、地域の防犯団体等が積極的に活動する必要がある。また、協働によるまちづくりの観点から市の支援は妥当性がある。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と、地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、委託料としての支援が適切か、再考する余地がある。 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と、地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、委託料としての支援が適切か、再考する余地がある。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と、地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、委託料としての支援が適切か、再考する余地がある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 防犯団体は、一定の成果をあげており、補助費等の削減は考えていない。 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	防犯団体は、一定の成果をあげており、補助費等の削減は考えていない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	防犯団体は、一定の成果をあげており、補助費等の削減は考えていない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 広く街頭で活動することで、多くの市民へ防犯意識の啓発ができています。 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	広く街頭で活動することで、多くの市民へ防犯意識の啓発ができています。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
広く街頭で活動することで、多くの市民へ防犯意識の啓発ができています。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ 有効性を改善して継続

方向性の理由
防犯団体への支援は、犯罪の未然防止に寄与しており、今後も継続したいが、支援のあり方については検討を要する。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
街頭啓発、イベント等でのパトロール、防犯行事等の支援により、防犯意識の啓発を図る。